

各位

会社名 株式会社BTM  
 代表者名 代表取締役社長兼 CEO 田口 雅教  
 (コード番号：5247 東証グロース市場)  
 問合せ責任者 取締役兼 CFO 懸川 高幸

## 2026年3月期 第3四半期決算 質疑応答集

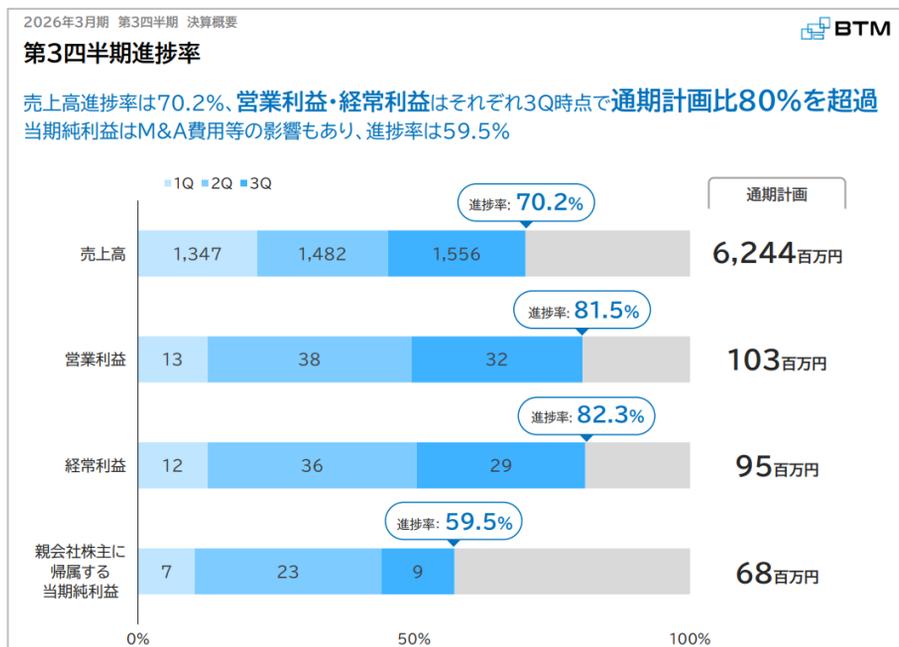
この質疑応答集は、2026年2月13日（金）に発表した2026年3月期第3四半期決算およびその後のリリースに関して、当社で想定していました質問並びに発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問合せ内容をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

### 質問 1

**通期業績予想に対する第3四半期の進捗状況について、営業利益の進捗率は80%を超えています。通期業績予想が上振れる可能性はあるのでしょうか？**

### 回答 1

第4四半期においても引き続き投資を計画しているため、通期業績予想は据え置いています。当社は今後の事業拡大を見据え、成長投資を重視しています。主な投資内容は、自社エンジニアの増員および待遇改善、幹部人材・営業・エンジニアの増員、M&Aです。M&Aについては、今期、株式会社クエスト・システム・デザインを完全子会社化しました。なお、純利益の進捗率は通期計画に対して59.5%です。一過性のM&A費用を計上していますが、通期業績予想の達成に向け、順調に進んでいます

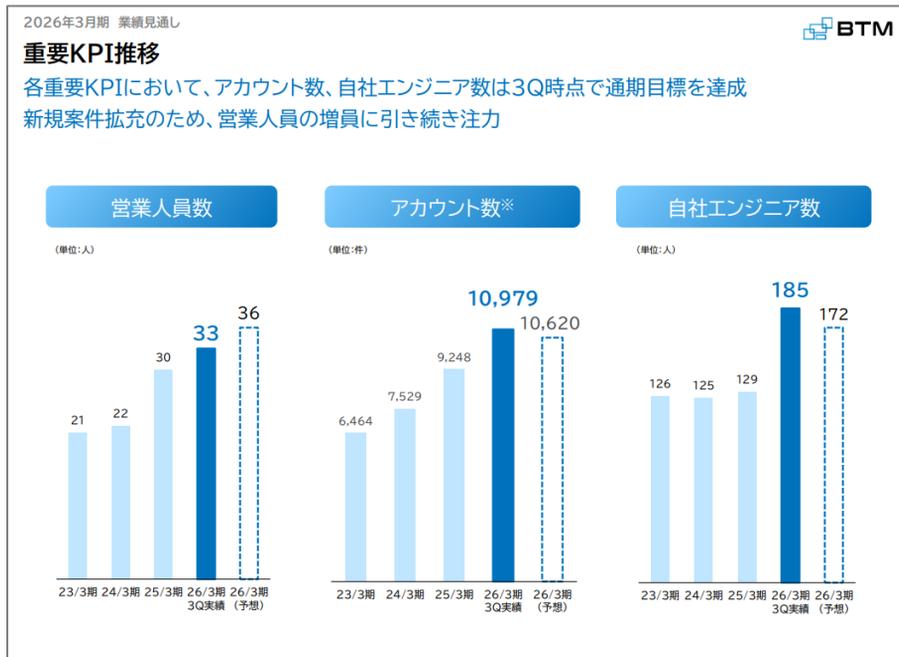


## 質問 2

重要KPIについて、第3四半期末時点の自社エンジニア数が前期末と比較して増加、且つ26/3期の通期計画に対して上回っている理由について教えてください。

## 回答 2

第3四半期末時点の自社エンジニア数は185名と前期末と比較し56名増加しています。増員の主な理由はクエスト・システム・デザイン社を子会社化したことによるものです。計画よりも増加している要因としては、M&Aによる自社エンジニア数の増加数は予測が困難であるため計画に含めていなかったこと、社員の待遇改善により定着率が向上したこと、また採用強化により計画通り人員の採用が進んでいることによるものです。



## 質問 3

26年3月期の業績予想について、売上高は前期比+22.4%増の6,244百万円ですが、第3四半期の売上高は前年同期比+16.0%で推移しています。第4四半期で売上高は増加する見込みなのでしょうか？

## 回答 3

業績の季節変動としては、クライアントの多くが3月決算のため、特に第4四半期に売上高が拡大する下半期偏重の傾向があります。今期も第1四半期から既存顧客との取引継続及び新規顧客獲得によって順調に売上高を積み上げ、当初計画通りに進捗しております。

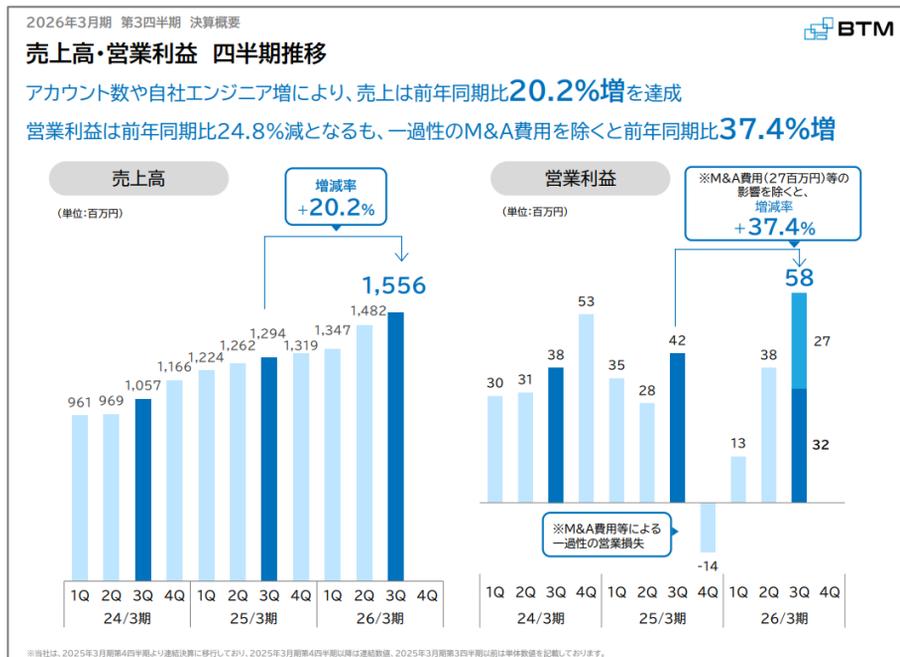
#### 質問4

通期計画に対する進捗は順調そうですが、一方、営業利益は前年同期比で減少となっています。主な理由について教えてください。

#### 回答4

今期は計画的にM&Aを含めた人材投資を中心に積極的な投資を行っています。その結果、営業利益は前年同期比では減益となりましたが、一過性のM&A費用を除くと前年同期比37.4%増です。

今期の主な投資内容は、営業人員および自社エンジニアの増員、管理部門の強化による連結体制の整備です。M&Aにより自社エンジニア数が大きく増加し、受注可能な案件も拡大しています。また、M&A、子会社などによる事業拡大を推進するため、管理部門の強化および連結体制の整備を進めています。投資の効果は想定どおりであると認識しています。



以上

< 参考資料 >

BTM 2026年3月期第3四半期通期決算動画  
<https://pdf.irpocket.com/C5247/doF3/iZCR/Nvmc.pdf>

BTM 2026年3月期第3四半期通期決算説明資料  
<https://pdf.irpocket.com/C5247/YpwX/oq0l/dvU1.pdf>